

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第60回「ベジマイト狂騒曲」

【ブラックかホワイトか】

国際的な人の往来が盛んになり、情報が国境を越えて流通している。それでも現地に行ってみないとわからないことが残っている。

先頃、私はAPAN（アジア太平洋高度ネットワーク **Jump01**）の会合に参加するためにオーストラリアに出張した。オーストラリアではコーヒーを注文すると「ブラックかホワイトか」と聞かれる。おもしろいのでホワイトを注文してみる。出てきたのは特に変わった味のコーヒーではない。ミルクの入ったコーヒーがホワイトである。なるほど正しい英語だ。それにしてもミルクが豊富にある。オーストラリア国立大学の宿舎でも、街のホテルでも部屋の冷蔵庫に紙パックの牛乳が置いてあり、無料サービス。その冷蔵庫はfridgeと表示してある。これは英式だそうだ。

レストランに行くと、カンガルー肉のステーキがある。さっそく食べてみたが、味は特に変わった感じがしない。私は食べる機会がなかったが、ワニの肉も普通にあるらしい。土産物の店に行くとカンガルーやワニの干肉を売っている。

【ベジマイト登場】

私たちはオーストラリア国立大学（キャンベラ）での仕事を終えてプリズベンに移動した。

ここでの訪問先はAPNIC **Jump02** である。街中でホテルの近所を散歩していると、フクロウ（owl）のマークのコンビニがあった。そこで私の友人の尾内理紀夫（おないりきお）氏は「ベジマイト」 **Jump03** が棚に並んでいるのを見つけた。

このベジマイト（Vegemite）というのは名前のとおり野菜（ベジタブル）を原料とした食品で、あとで気が付いたのだが、日本語のガイドブックにも載っていた。インスタントコーヒーのような形の瓶に入っている。KRAFTというのが製造会社らしい。乳酸というような表現が書いてあるので、ヨーグルトのようなものかと思うとむしろ納豆に近いという話である。私は試食していないので、情報が不足している。

なぜ試食していないかという、尾内氏は奥様へのお土産として購入したものの、私たちには買うことを勧めなかった。「普通の日本人の口には合いませんよ」と言われると気になる。なぜ自分では買うのか、と聞くと、尾内夫人は高校時代にオーストラリアに1年間留学していた。ベジマイトは懐かしい味だという。

翌日に私たちはAPNICを訪問した。事務局長のポール・ウィルソン氏にベジマイトのことを尋ねてみると、「オーストラリア人の中でも好きな人と嫌いな人がいる。自分は好きなほうだ。子供の時から食べている。どのように食べるかという、食べるというよりもパンに塗るもの。それにしても、ウィルソン氏は日本人の中にベジマイトが好きな人がいるというのは信じられないという。

【日本にも納豆あり、梅干もある】

そう言えば、納豆は日本人の中でも食べない人がいる。私の友人の米国人ジェフリー・スミス氏は納豆が大好きで、わざわざ水戸まで買いに行ったことがある。これは一般の日本人の水準を超えている。ベジマイトが好きな日本人がいても不思議ではない。

日本に来て納豆に挑戦した外国人は大勢いると思う。私も試食を勧める側だ。もっとも、納豆は有名なので海外でも結構知られている。私にとって意外だったのはシン

ガポールの友人に梅干を勧めた経験だ。彼は梅干を全然食べられなかった。あの塩辛い味が苦手のような。日本人にとっては子供時代の懐かしい味だと思う。

それにしても日本人は何でも食べる。世界の料理を東京で食べることが可能である。珍しい果物だって、値段をいといわなければ日本で入手できる。この東京で手に入らないとすると、やはりベジマイトは日本人の口には合わないのか。

【ベジマイトを東京で発見】

そう思って近所のコーヒー豆の店の棚を見ていたら、ベジマイトの瓶を発見した。この店はコーヒー豆に限らず、アジア系の食材を広く扱っている。棚のベジマイトは235グラム入りの小さな瓶だ。日本語の解説が貼ってある。野菜が原料で栄養価が高い。さっそく買おうと思ったのだが、ちょっと待て。今までの情報を総合すると、私の家族は小瓶1つを食べ切れない恐れがある。ほんの少し試食してみて、あとは尾内氏に譲ろうか。

それにしても東京という街は偉い。本当に国際都市なのである。そして日本人は何でも食べる。

Jump01 www.apan.net

Jump02 www.apnic.net

Jump03 www.vegemite.com.au





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp